Arcserve® UDP 7000 シリーズ はじめにお読みください

1 はじめに

Arcserve Unified Data Protection 7000 シリーズ アプライアンス (以下、Arcserve UDP 7000 シリーズ) をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。製品をご使用する前に、本書を必ずお読みください。

2 梱包内容の確認

本製品には、以下のものが梱包されています。はじめに、以下のすべてが入っているかをご確認ください。万一不足品がございましたら、早めに販売店にご連絡ください。製品が弊社の出荷日から 30 日経過すると、不足品の補充が有償になる事があります。

製品内容	数量	確認欄
Arcserve UDP 7000 シリーズ本体(シリアル番号が本体天板に貼付)	1	
Arcserve UDP 7000 シリーズ フェイス プレート	1	
ラック マウント レール キット	1	
電源ケーブル	2	
Windows プロダクトキー(本体天板カバーに貼付)	1	
はじめにお読みください(本書)	1	

※ メンテナンス期間を記入したライセンス プログラム証書は別途電子メールにてお納めします。
※ オプション増設カードを購入された場合、各メーカーのドライバ更新のご案内を同梱する事があります。

3 最新情報のお知らせ

製品の最新情報は、弊社 WEB サイトをご参照ください。サポート サイトでは機能改善や不具合修正のためのパッチや注意事項などをご案内しています。

・Arcserve シリーズ 製品情報 (概要紹介、カタログなど)
https://www.arcserve.com/jp/
・サポート サイト (注意/制限事項、動作要件、技術情報、マニュアルなど)
https://support.arcserve.com/s/?language=ja

4 マニュアル

最新のマニュアルは、サポート サイトより入手いただけます。

・マニュアル一覧
https://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/V5/JPN/Bookshelf.html
・Arcserve UDP 7000 シリーズ ユーザ ガイド
https://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/V5/jpn/Bookshelf_Files/PDF/appliance_user_guide.pdf

5 安全に関する注意事項

上記「Arcserve UDP 7000 シリーズ ユーザ ガイド」の 付録 A に安全に関する注意事項をまとめています。本製品を使用する前に必ずご覧ください。

6 株式会社ニューテックについて

ニューテックは Arcserve UDP 7000 シリーズのハードウェアを供給しています。Arcserve はニューテックと協力し、本製品のサポートをお客様に提供します。

ご注意:本書の内容は、2016 年 10 月 11 日現在のものです。
改善のため、事前の予告無く変更する場合があります。
Printed in Japan.

arcserve®

#I00217

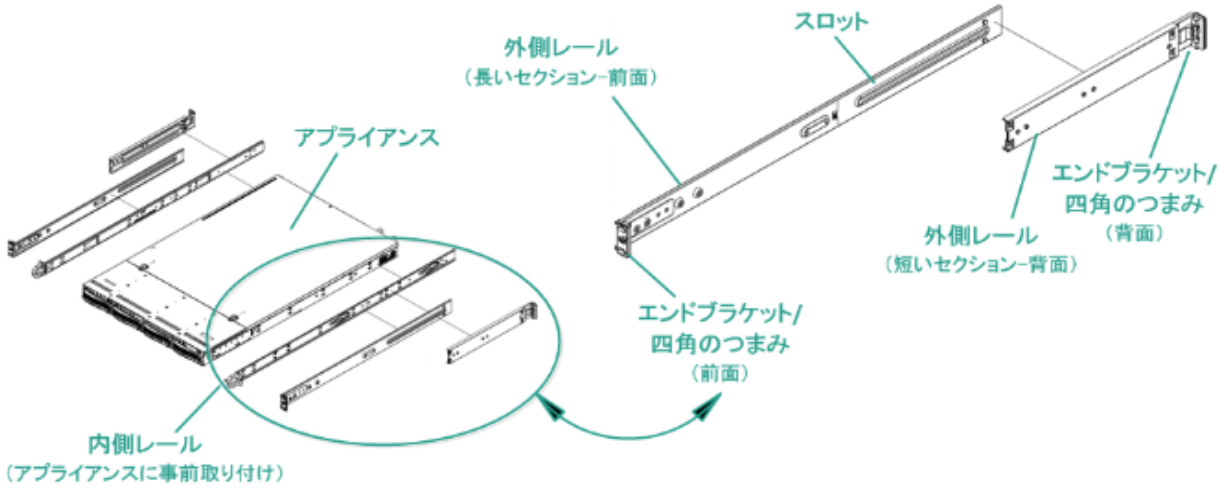
7 設置方法

アプライアンスをラックに固定するため、同梱のラック マウント キットを利用できます。このキットは、アプライアンス本体に取り付け済みの内側レールと、外側レールで構成されています。

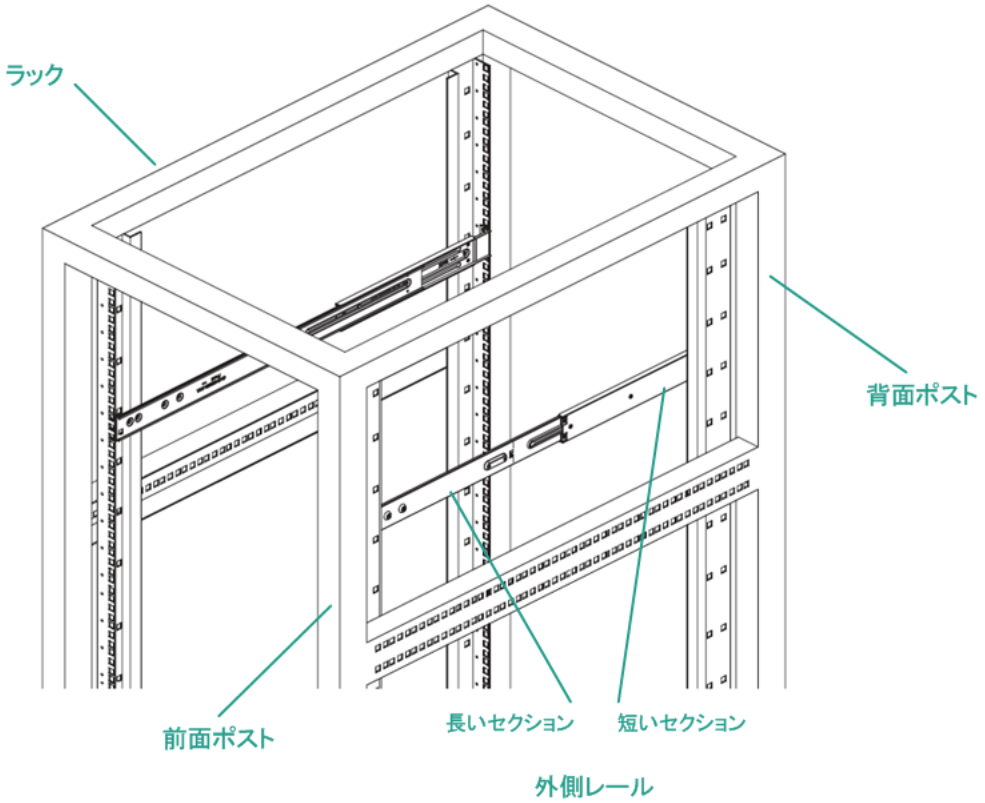
1. 設置場所の前面および背面に気流を塞ぐような障害物がない事を確認します。さらに、設置場所で常に適切な動作温度が維持され、熱、電気的ノイズ、電磁場が生じないことを確認します。これ以降の設置作業は安全のため必ず複数人で実施してください。

注:外側レールは 2 つのセクションから構成されます。設置後には、長いセクションがラックの前面ポスト(支柱)に取り付けられ、短いセクションがラックの背面ポストに取り付けられます。

2. 外側レールの短いセクションと長いセクションのピンを対応するスロットの穴に合わせて取り付けます。



3. 外側レールの短いセクションの 2 つの四角形のつまみが、背面ポストの四角形の穴に合うようにしっかりと取り付けます。



4. 組み立てられた外側レールの全体の長さを調整し、レールがラック内に水平に収まるようにします。

5. 外側レールの長いセクションの 2 つの四角形のつまみが前面ポストの四角形の穴に合うようにしっかりと取り付けます。

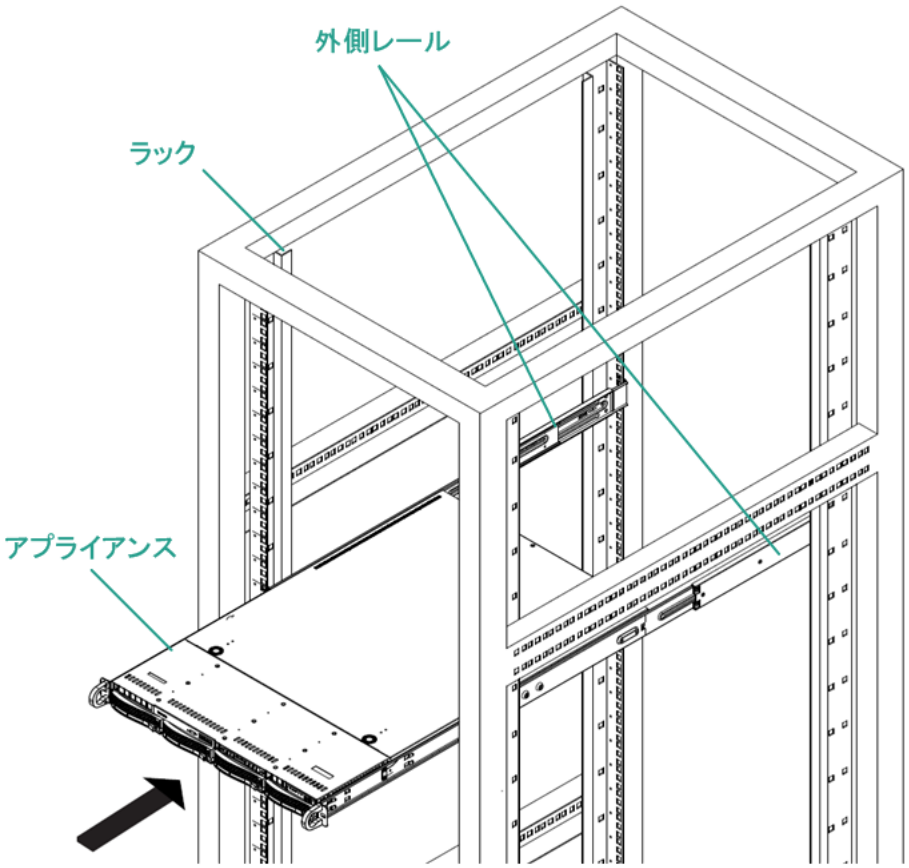
6. 外側レールを取り付けた状態で、短いセクションと長いセクションを、ラックの内側から、皿ワッシャーと短い皿ネジを使用して 2 箇所固定します。

7. もうひとつの外側レールに対して手順 2～6 を繰り返します。

注:アプライアンス本体の側面には内側レールがあらかじめ取り付けられています。必要に応じて内側レールの延長も可能です。内側レールを延長しない場合は、アプライアンスをラックから取り外す際にご注意ください。本体後端より先にレールが抜けます。

注:アプライアンス本体を取り付ける前に、本体天板に貼付されているシリアル番号(英数 12 文字の)と Windows プロダクトキー(英数 25 文字)を控えておいてください。シリアル番号はテクニカルサポートへの問合せの際に必要になります。

8. アプライアンスを慎重に持ち上げ、内側レールの後端をラックにマウントされた外側レールの前端に合わせて挿入します。両方の側を適度に押しながらアプライアンスをラック内の設置場所までスライドしてロックさせます(カチっと音がするまでスライドします)。



9. 最後に、長い皿ネジと皿ワッシャーを使用し、シャーシ前面のハンドル部分にある穴をネジ止めします。左右 2 箇所ともネジ止めます。

8 ケーブルの接続

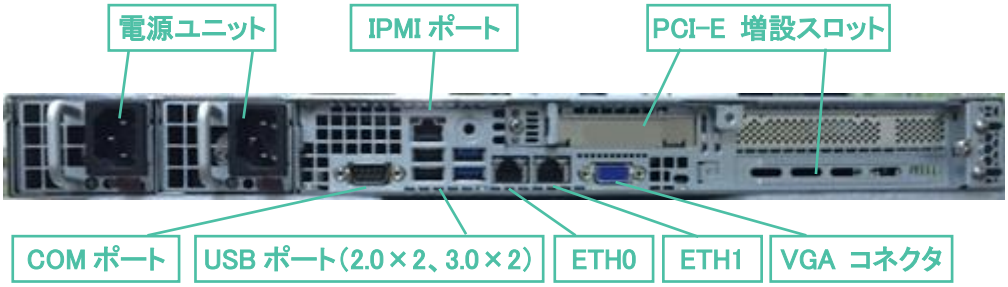
1. LAN ケーブルをイーサネットポートに接続します。前面パネルで、対応するネットワーク アクティビティの LED が点灯します。(ETH0 ポート = ネットワーク 1 LED、ETH1 ポート = ネットワーク 2 LED)

2. 電源ケーブルの一端をアプライアンスの背面に接続し、もう一端を電源に接続します。コンセントは奥まで確実に挿入し、必ずアースを取ってください。

3. モニタとキーボードを接続します。

4. IPMI (※)専用ポートを LAN ケーブルでネットワークに接続します。IPMI ポートのデフォルト IP アドレスは「192.168.1.2」です。必要に応じて BIOS セットアップで変更してください。

注: IPMI アクセス用のデフォルトのユーザ名/パスワードは ADMIN/ARCADMIN です(大文字と小文字が区別されます)。これはできる限り早めに他の値に変更してください。デフォルトのパスワードを変更する方法については、「Arcserve UDP 7000 シリーズ ユーザ ガイド」を参照してください。



※ IPMI(Intelligent Platform Management Interface)は OS から独立したサーバのリモート監視/管理を可能にする業界標準のインターフェースです。IPMI を使用することで、例えばリモートで Arcserve UDP 7000 シリーズの電源をオン/オフしたり、Arcserve UDP 7000 シリーズ内部の温度やファンの状態を監視したりすることができます。

9 電源を入れる

1. 前面パネルで電源ボタンを押します。電源 LED が点灯します。

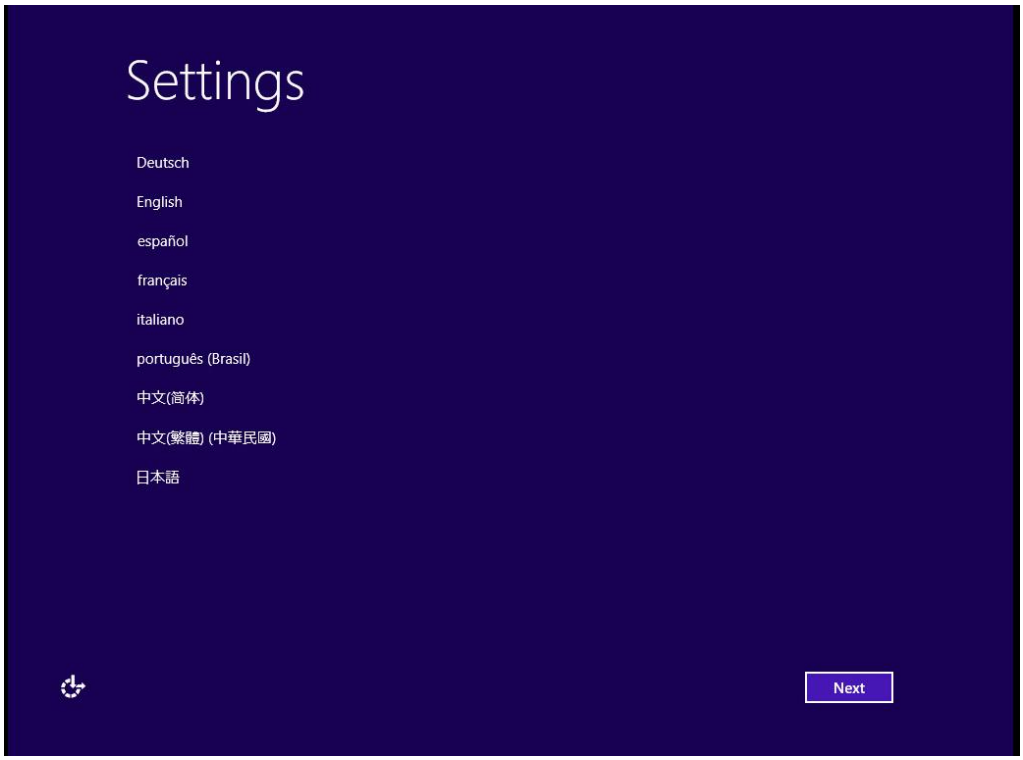
2. フェイス プレートを前面パネルに取り付けます。

重要:アプライアンスの電源が初めて入ると、自動的に数回再起動されることがあります。これは、初回開始の正常な動作です。

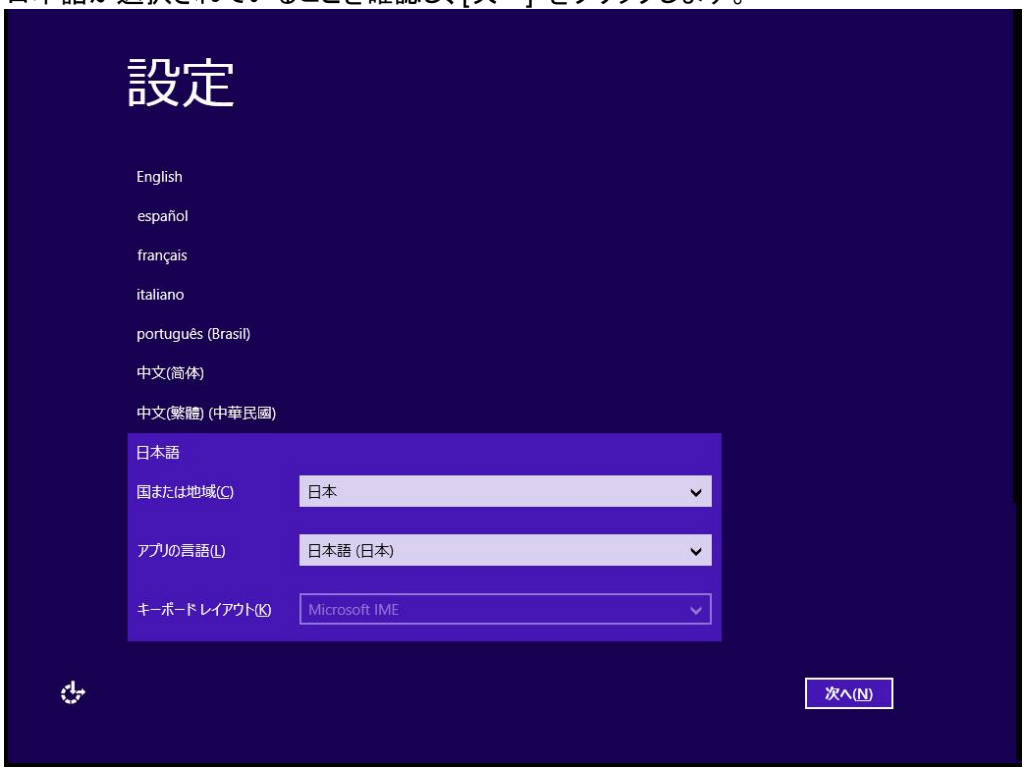
10 環境設定ツールの実行

Arcserve UDP アプライアンスを管理するために、ホスト名をアプライアンスに割り当て、ネットワーク ポートを設定する必要があります。次の手順に従ってください。

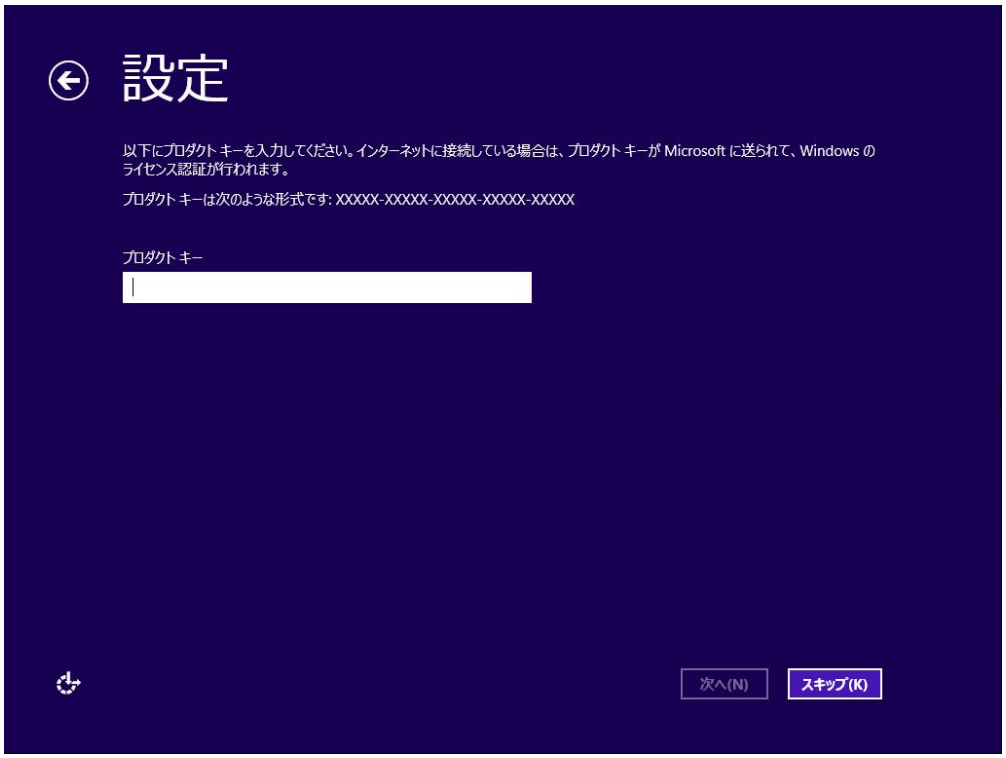
1. [Settings] – [設定]
   Arcserve UDP 7000 シリーズ本体の電源がオンになると、以下の画面が表示されます。 [日本語] をクリックし、選択します。



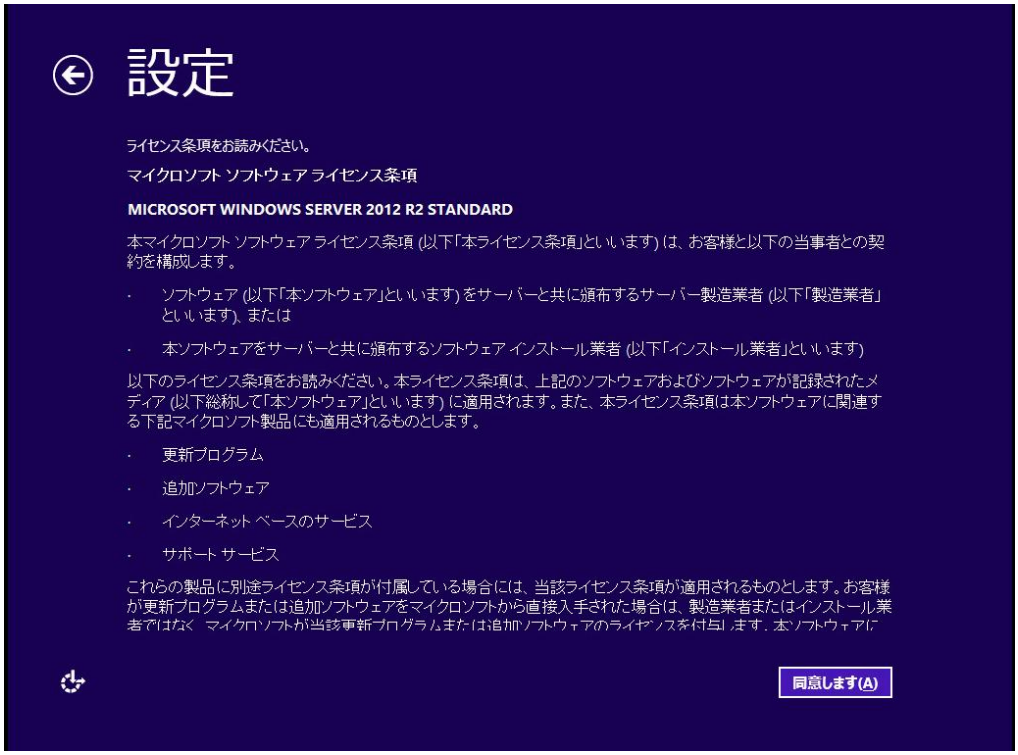
日本語が選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。



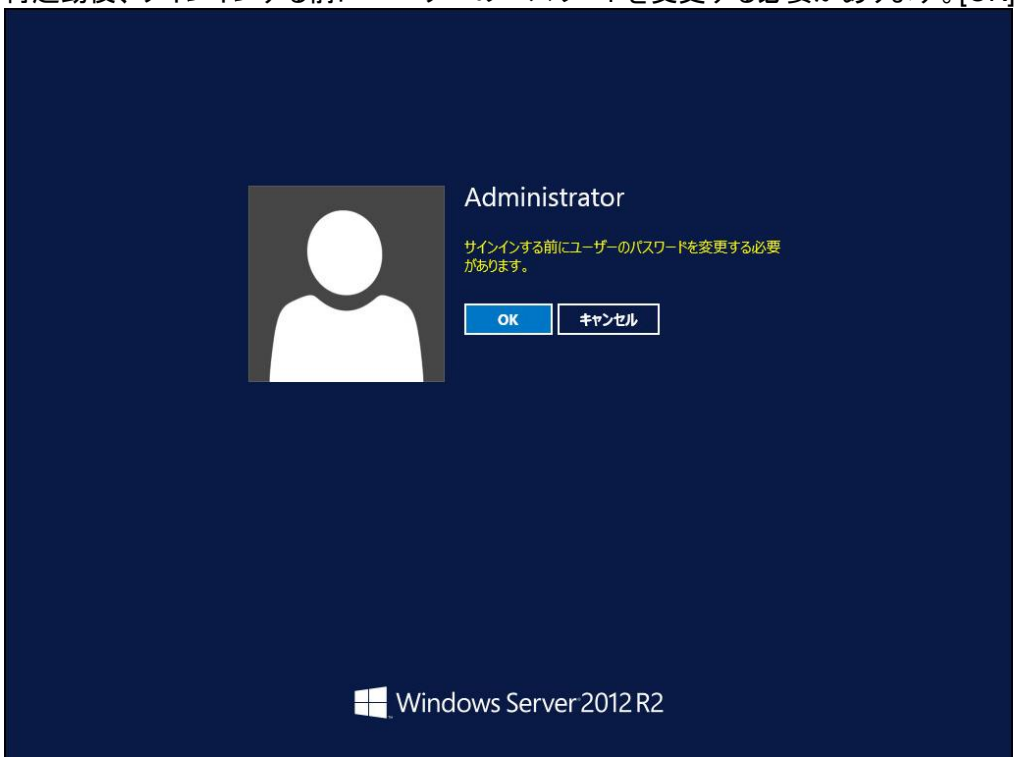
2. [設定]
本体天板カバーに貼付されている英数 25 桁の Windows ライセンス(プロダクトキー)を入力し、[次へ] をクリックします。



3. [設定]
[マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項] を確認し、[同意します] をクリックすると再起動が実行されます。

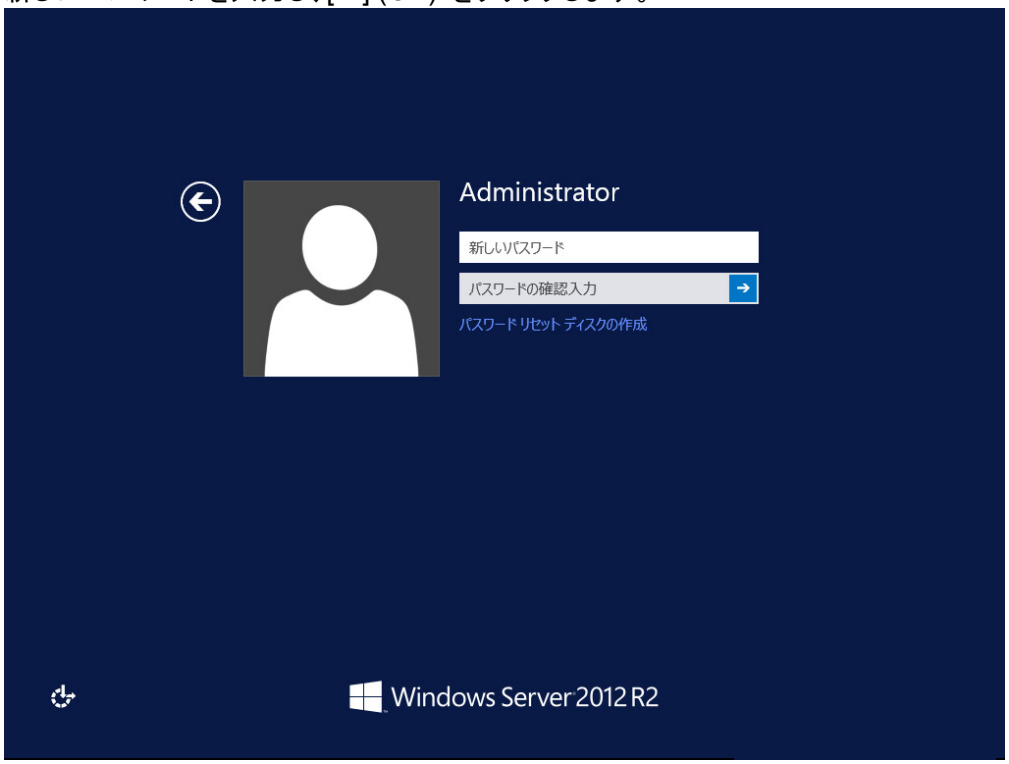


4. パスワードの変更
再起動後、サインインする前にユーザーのパスワードを変更する必要があります。[OK] をクリックします。



※ この画面でしばらくすると、サインイン画面に変更になります。[Ctrl]+[Alt]+[Del] キーを押し、サインイン画面を表示し、[Administrator] をクリックするとパスワードの変更画面が表示されます。

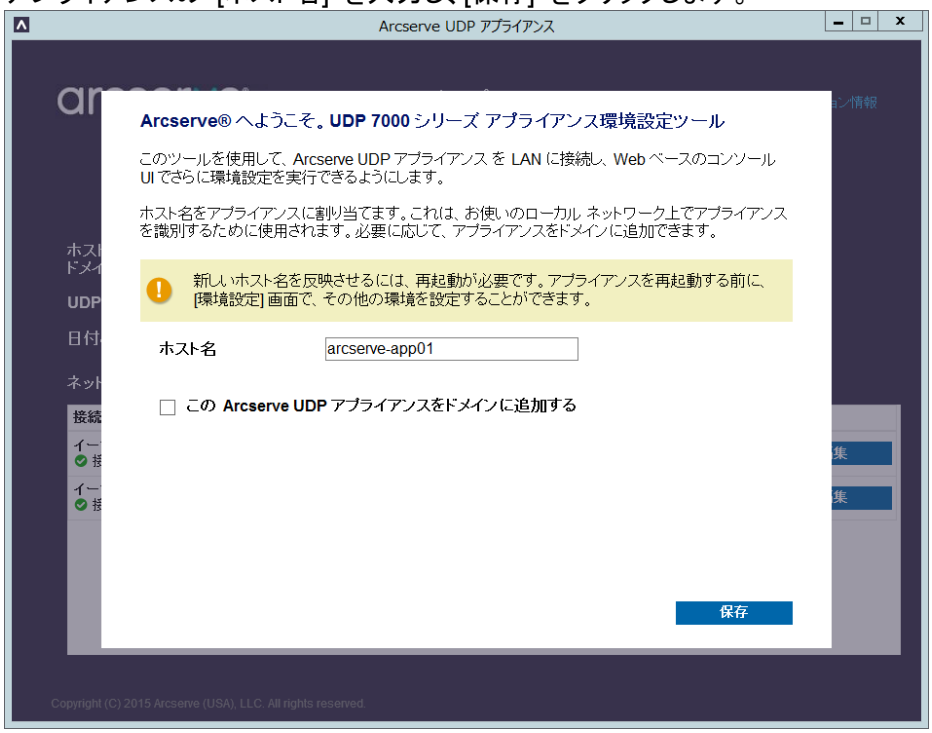
5. パスワードの変更
新しいパスワードを入力し、[→] (OK) をクリックします。



ログイン後、Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンス環境設定ウィザードが開始されます。

6. UDP 7000 シリーズ アプライアンス [ユーザ使用許諾契約]
[ユーザ使用許諾契約] ダイアログ ボックスが表示されます。使用許諾契約の内容を確認し、同意する場合は [使用許諾の条件に同意します] を選択し、[次へ] をクリックします。

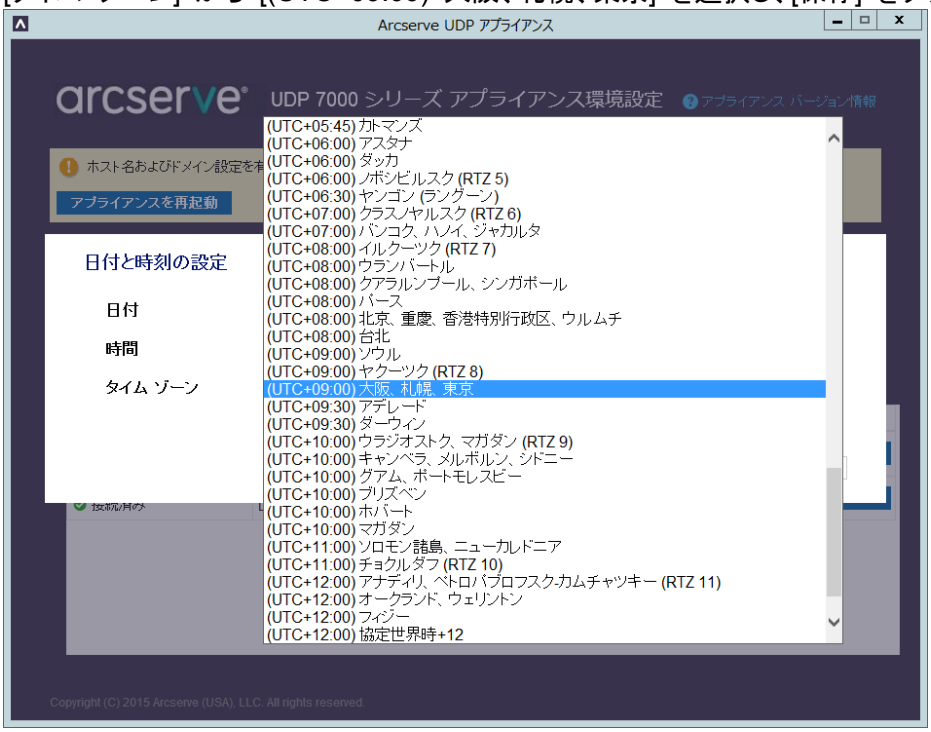
7. [Arcserve へようこそ。UDP 7000 シリーズ アプライアンス環境設定ツール]
アプライアンスの [ホスト名] を入力し、[保存] をクリックします。



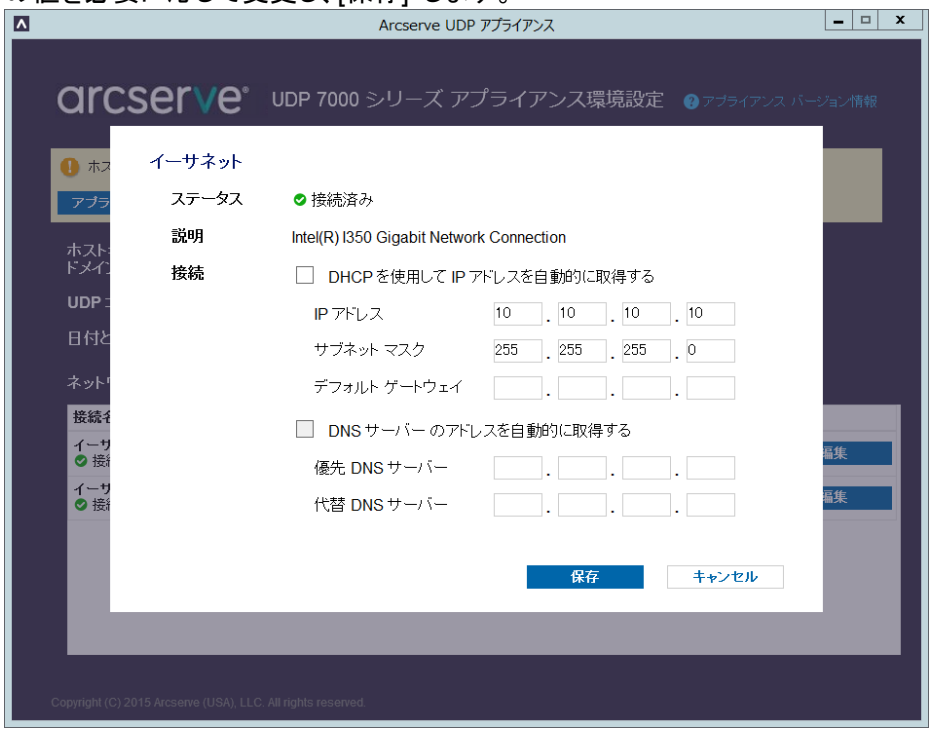
※[この Arcserve UDP アプライアンスをドメインに追加]オプションにチェックすると、アプライアンスをネットワーク内の Active Directory ドメインのメンバにすることができます。必要に応じてドメイン、ユーザ名、パスワードを指定します。

8. [UDP 7000 シリーズ アプライアンス環境設定]
環境設定ウィザードはすべてのネットワーク接続を自動検出します。まず、[日付と時刻] の右横の [編集] をクリックします。

9. [日付と時刻]
[タイム ゾーン] から [(UTC+09:00) 大阪、札幌、東京] を選択し、[保存] をクリックします。

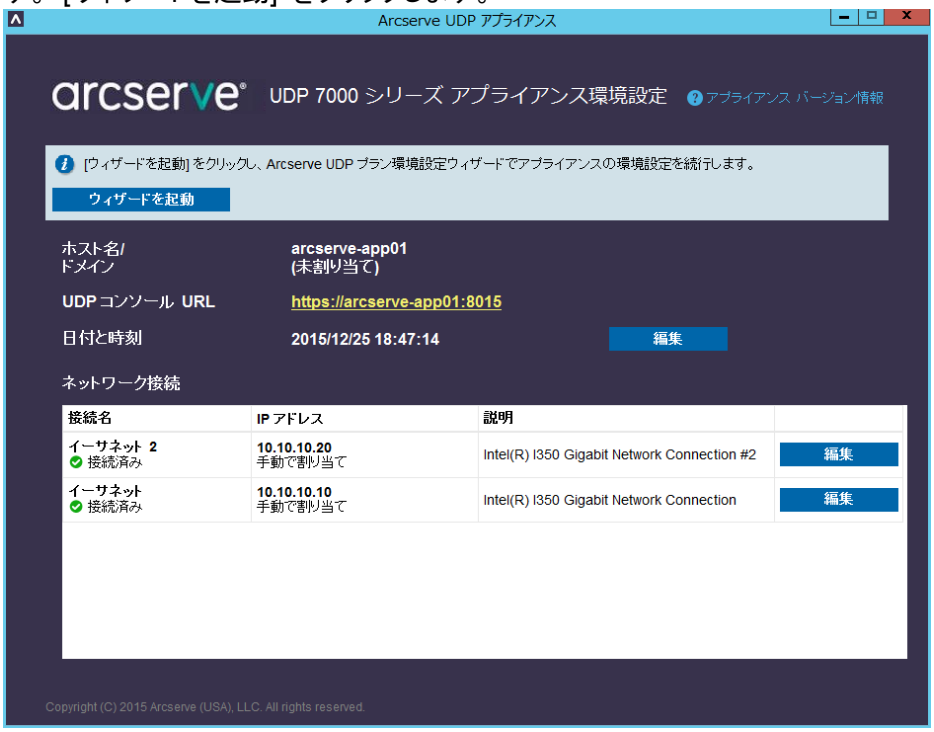


10. [ネットワーク接続]
各ネットワーク接続の右端の [編集] をクリックし、IP アドレス、サブネット マスク、デフォルト ゲートウェイの値を必要に応じて変更し、[保存] します。

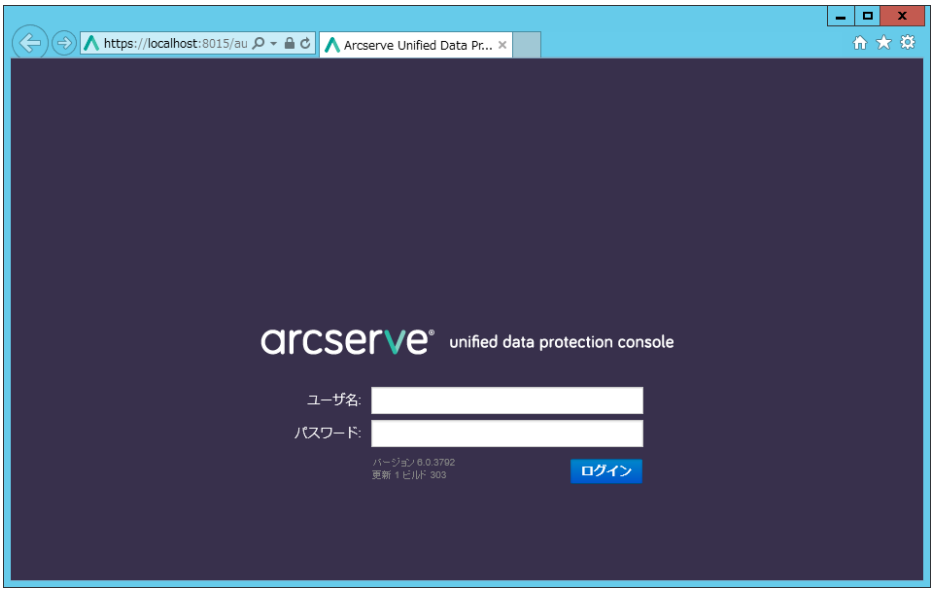


11. [アプライアンスを再起動]
設定が完了したら、[アプライアンスを再起動] をクリックし、ホスト名およびドメイン設定を有効にします。

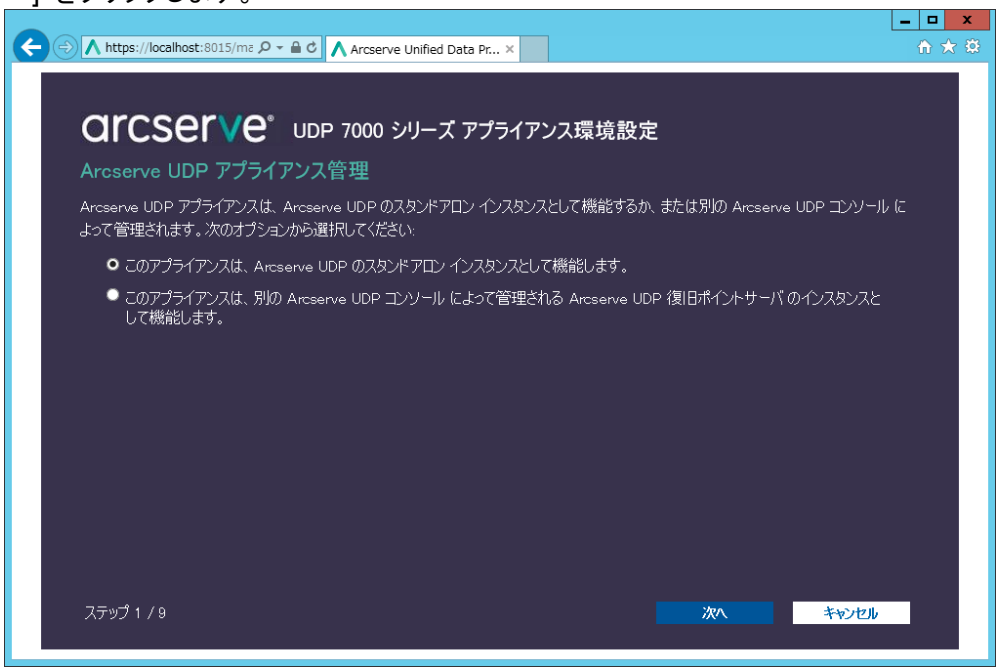
12. [ウィザードを起動]
再起動後ログインすると、[UDP 7000 シリーズ アプライアンス環境設定ウィザード] が再び立ち上がります。 [ウィザードを起動] をクリックします。



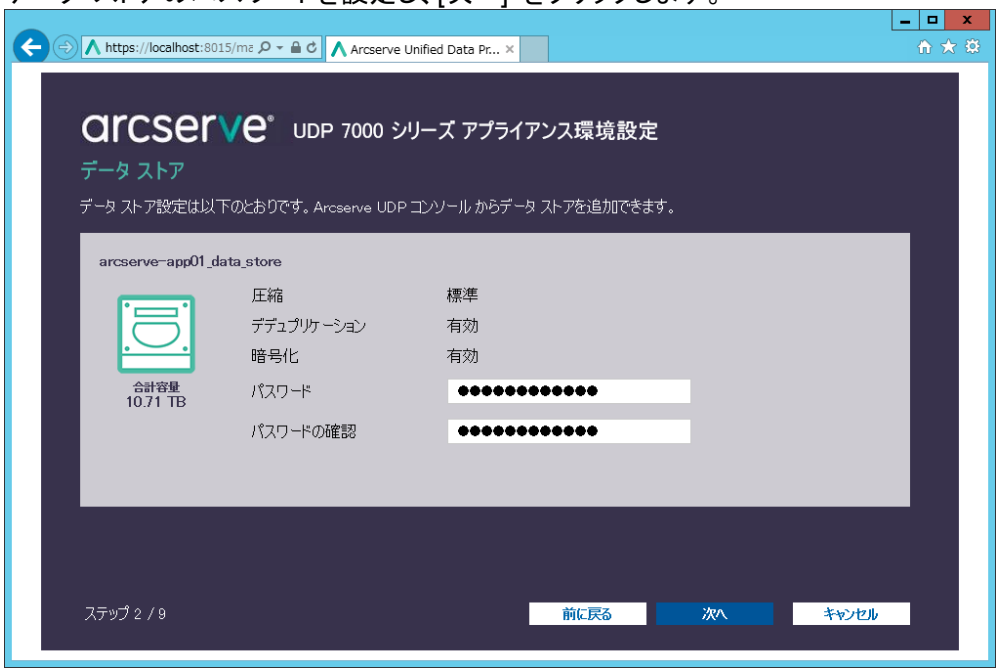
Arcserve UDP 管理コンソールが起動します。Arcserve UDP コンソールにログインし、アプライアンス環境設定を行います。



13. [Arcserve UDP アプライアンス管理]
[このアプライアンスは、Arcserve UDP のスタンドアロン インスタンスとして機能します。] を選択し、[次へ] をクリックします。



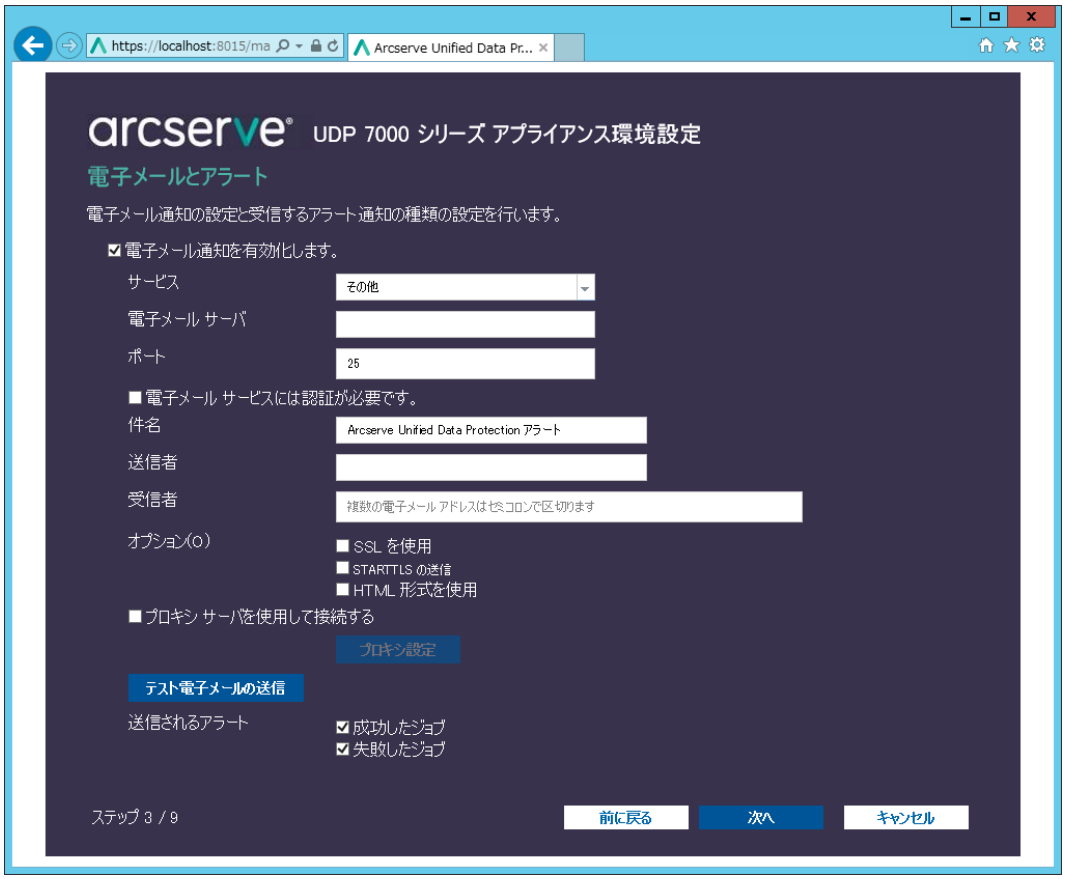
14. [データ ストア]
データ ストアのパスワードを設定し、[次へ] をクリックします。



※ データ ストアは、Arcserve UDP 7000 シリーズ上の物理ストレージ領域で、バックアップ先として使用されます。この環境設定ウィザードでは 1 つ目のデータ ストアとして、<hostname>_data_store という名前のデータ ストアを作成します。このデータ ストアは、デフォルトで次頁のように設定されます。（ハッシュ ファイル パスである Y:ドライブは SSD 上のボリュームです。）

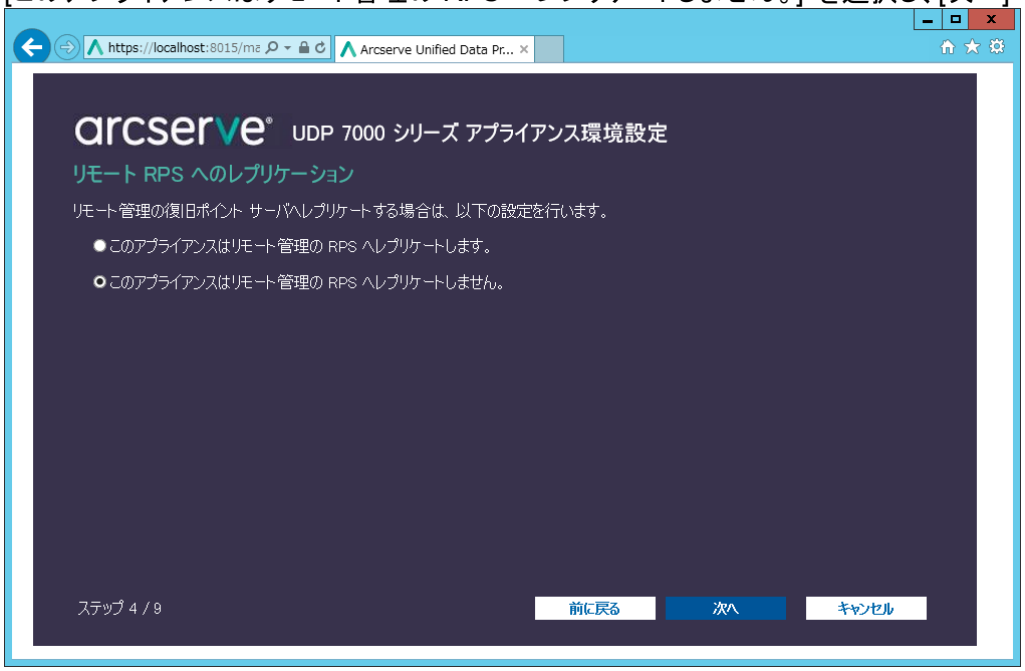
※ データ ストアの設定変更や追加作成が必要な場合は、環境設定ウィザード終了後に Arcserve UDP コンソールで設定できます。

15. [電子メールとアラート]
このダイアログ ボックスでは、アラートを送信するために使用される電子メール サーバと、アラートを受け取る受信者を定義できます。必要に応じてそれぞれの設定を行います。

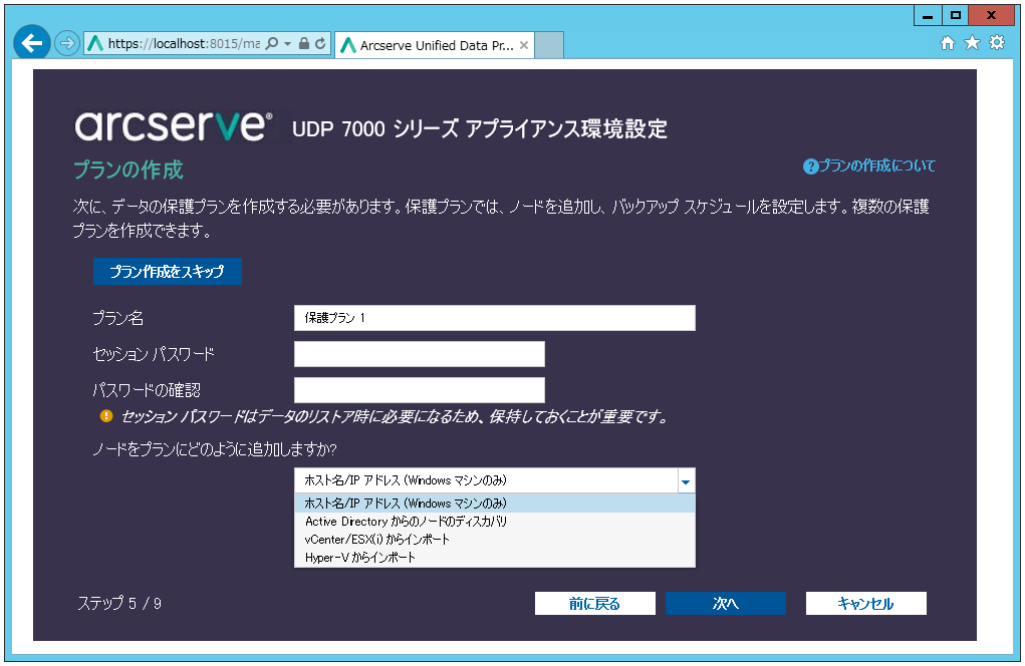


※ 各項目の詳細は Arcserve UDP ソリューション ガイドをご覧ください

16. [リモート RPS へのレプリケーション]
[このアプライアンスはリモート管理の RPS へレプリケートしません。] を選択し、[次へ] をクリックします。



17. [プランの作成]
1つめのプランを作成します。各項目を設定し [次へ] をクリックします。(ここで [プラン作成をスキップ] をクリックし、後から Arcserve UDP コンソールでプランを作成する事も可能です。)

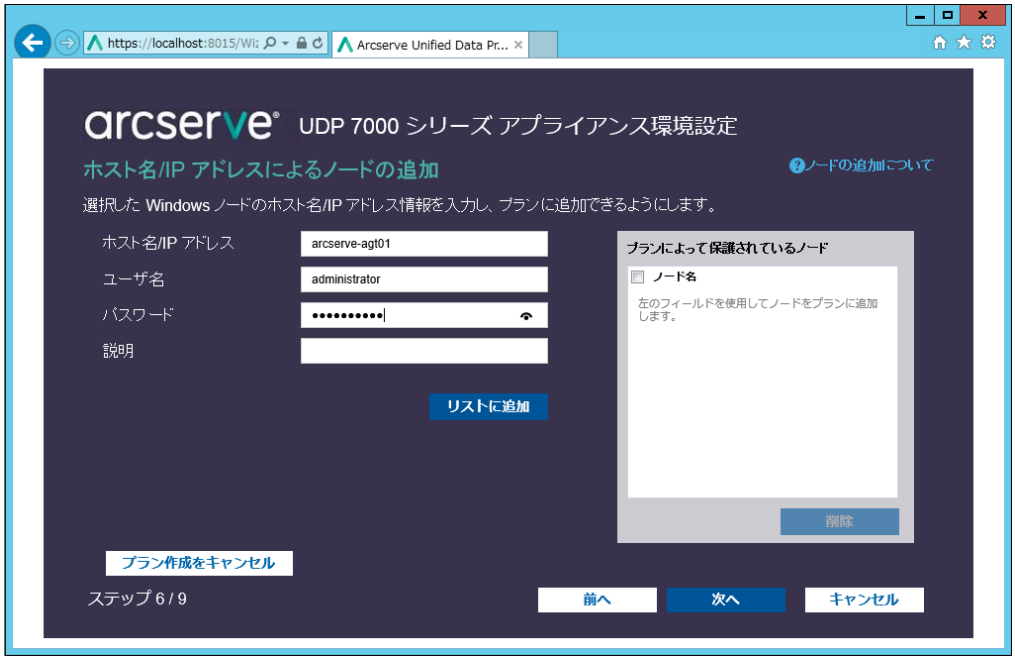


[プラン名]
プランの名前を指定します。(プラン名を指定しない場合は、デフォルトの名前として「保護プラン <n>」が割り当てられます。)

[セッション パスワード]
セッション パスワードを指定します。セッション パスワードはデータのリストア時に必要となるため、忘れないように注意してください。

[ノードをプランにどのように追加しますか?]
ノードをプランに追加する方法を選択します。この例では [ホスト名/IP アドレス(Windows マシンのみ)] を選択しています。

18. [ノードの追加]
バックアップ対象のノード情報を入力し [リストに追加] を行い、[次へ] をクリックします。



19. [バックアップ スケジュール]
Arcserve UDP エージェントのインストールの設定および、バックアップのスケジュールを行い、[次へ] をクリックします。

[インストール/アップグレードおよび再起動のタイミング]
デフォルトでは、次回の金曜日 21 時に前ステップで追加したノードに対して Arcserve UDP エージェントのインストールが予約されます。必要に応じて、スケジュールを変更してください。

※ Arcserve UDP エージェント インストール後、対象サーバが再起動される事がありますのでご注意ください。

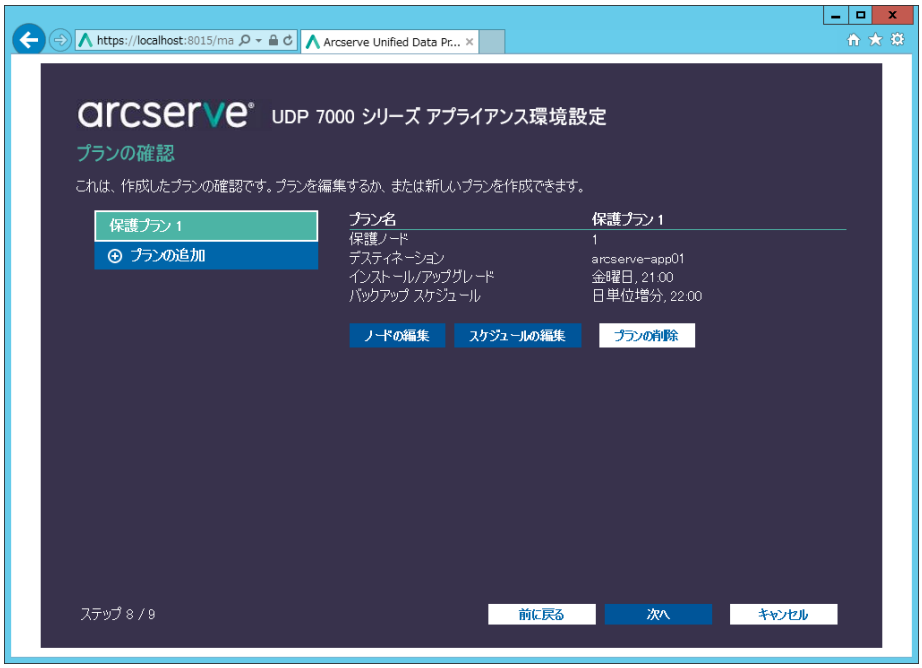
[日次増分バックアップの実行]
このウィザードでは、日次の増分バックアップの設定を行うことができます。その他のバックアップ スケジュールを設定する場合はウィザード終了後、Arcserve UDP コンソールから詳細設定を行います。

※ この日次増分バックアップの復旧ポイントの保存数は、「日:7、カスタム/手動:31」に設定されています。必要に応じて、Arcserve UDP コンソールから変更できます。

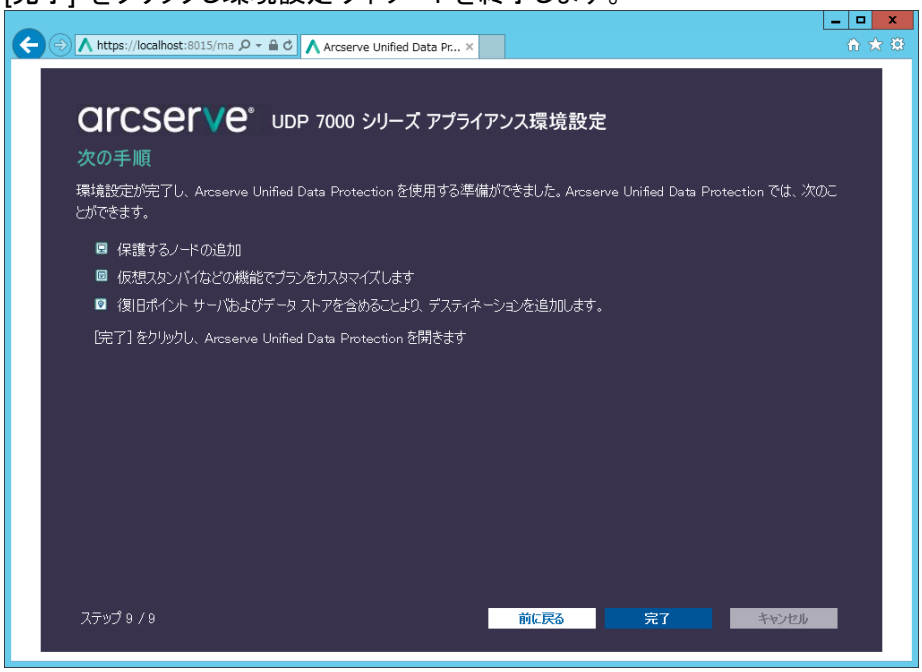
※ バックアップ時間をインストール/アップグレード時間より前に指定すると、自動的にインストール後にバックアップが予約されます。たとえば、エージェントのインストールを金曜日の午後 9 時にスケジュールし、バックアップを午後 8 時にスケジュールした場合、初回のバックアップは土曜日の午後 8 時に実行されます。

※ 増分バックアップ スケジュールは、初回にフル バックアップが実行され、2 回目以降に増分バックアップが実行されます。

20. [プランの確認]
作成したプランの詳細を確認し、[次へ] をクリックします。
必要に応じて、[ノードの編集] または [スケジュールの編集] をクリックしてノードまたはスケジュールを編集するか、プランを追加または削除できます。



21. [次の手順]
[完了] をクリックし環境設定ウィザードを終了します。



環境設定ウィザードが完了すると、Arcserve UDP コンソールが自動的に起動します。必要に応じて、データ ストアやプランのカスタマイズを行います。

※ 以後、他の任意のマシンから以下の URL を使用して Arcserve UDP コンソールにアクセスすることができます。
https://<hostname>:8015

11 Arcserve UDP 7000 シリーズ自体のバックアップ

Arcserve UDP 7000 シリーズ自体を保護するために、以下の設定を行います。

1. ノード登録の確認
   Arcserve UDP 管理コンソールで[リソース]-[すべてのノード]を開き、Arcserve UDP 7000 シリーズ本体が追加されている事を確認します。

2. バックアップ プランの作成
   Arcserve UDP 7000 シリーズ本体を保護するバックアップ プランを作成します。以下設定例です。

※ このプランは、Arcserve UDP 7000 シリーズが壊れたときのためのバックアップです。そのため、上記例ではデスティネーションとして Arcserve UDP 7000 シリーズの外部の共有フォルダ(¥¥からはじまる UNC パス)を指定しています。

※ ノード全体のバックアップを行うと、Arcserve UDP のデスティネーションとして利用されているドライブは自動的にバックアップ対象から除外されます。そのため、Arcserve UDP 7000 シリーズ自体のバックアップでは「C: ドライブのみ」がバックアップされます。これによって、Arcserve UDP 管理コンソールの設定情報が保存されている Microsoft SQL Express Server データベースなど、C:ドライブ全体を復旧する事ができます。

※ C:ドライブのベアメタル復旧後、データ ストアの再作成が必要になります。リカバリに備えてデータ ストアの設定情報を事前に控えておくことをお勧めいたします。

※ X:ドライブに保存されるバックアップ データをさらにバックアップしたい場合は、以下のいずれかの機能が使用できます。
- 復旧ポイントのコピー
- 復旧ポイント サーバ（RPS）間のレプリケーション
- Arcserve Backup と連携したテープへの二次バックアップ

12 オプション増設カードのドライバ追加について

オプション増設カードを追加した場合、製品によってはデバイス ドライバが標準でインストールされておらず、デバイス マネージャで [不明なデバイス] として表示される事もあります。そのため、最新のデバイス ドライバをインストールする事をお勧めします。ドライバのダウンロード先は以下の KB をご覧ください。

・オプション増設カードのデバイス ドライバ ダウンロード先について
https://support.arcserve.com/s/article/208386083?language=ja

13 サポートへのお問合せ

Arcserve UDP 7000 シリーズにはメンテナンスが標準で付随しており、メンテナンス期間中にチョイスサポートプログラム（CSP）をご利用いただけます。

◆ 有償サポートお問い合わせ方法

➢ Arcserve サポートポータルでのお問い合わせ

https://support.arcserve.com/s/?language=ja にログインし、[お問い合わせ] からお問い合わせください。
Sev1 案件 (本番環境におけるシステムダウン) については対応の迅速化を図るために、弊社サポートセンターまでお電話でご連絡をいただくようお願い致します。

➢ 電話でのお問い合わせ

0120-702-660 (Arcserve サポート CSP 窓口) におかけください。
製品担当者より折り返し対応させていただきます。受付時間は平日の 9 時から 17 時 30 分です。
24 時間 365 日ハードウェア サポート オプションを購入したお客様で、営業時間外のハードウェア サポートを希望される場合は電話でご連絡ください。営業時間外の問合せ受付はハードウェアの問題に限ります。切り分け後にソフトウェアの問題だと判明した場合は、翌営業日以降の対応になります。

◆ お問い合わせに必要なもの

お問い合わせの際に以下の情報をご準備ください。（サポート受付時に必要な情報です）

- お客様情報
  会社名、ご担当者名、メールアドレス、電話番号をご用意ください。
- お客様のオーダーID
  ライセンス証書に記載されているオーダーID をお知らせください。
- 本製品のシリアル番号
  本体天板に貼付されているシリアル番号（12 桁の英数字）をお知らせください。
- 問題と環境の詳細
  ご利用の製品のバージョン、環境（ハードウェア、OS、アプリケーション、ネットワーク）や問題の内容の詳細をできる限り詳細にご確認の上、ご準備いただきますと、問題解決がより早くなります。

◆ 初回応答時間目標

折り返し対応のご連絡までのお時間はシビアリティ（重大度）により下記を目安にさせていただきます。

Sev.1 ： プロダクション･システムのダウンまたは稼動不能な状況 ･･･ 1 時間以内
Sev.2 ： 製品に関する問題で、影響が大きいと予想されるもの ･･･ 2 時間以内
Sev.3 ： 製品に関する問題で、発生頻度が低く、影響が小さいもの ･･･ 4 時間以内
Sev.4 ： 製品の使用方法やインプリメンテーションに関する質問 ･･･ 1 営業日以内
（16 時以降にお受けした場合は翌日ご対応させていただく場合があります。）

◆ 注意事項・制限事項

本サポート プログラムのサポート条件につきましては Arcserve Appliance Support Policy (https://supportftp.arcserve.com/zendesk_attachments/205489796/Arcserve_Appliance__Software_and_Warranty_Policy_JPN.pdf) をご覧いただき、ご同意いただくものとします。
また、本サポート プログラムでは以下の項目についてはサポート範囲を超える制限事項とします。

Arcserve 製品自体のプログラム変更及びプログラム開発
プログラムのデバッグ作業
コンサルティング サービス
出張・出向サービス（ハードウェアの修理対応を除く）

すべての製品名および会社名は、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。